令和８年９月定例会会議録

（令和８年９月２８日）

八代市教育委員会

八代市教育委員会９月定例会会議録

【開 催 日】　令和８年９月２８日（月）

【場　　所】　八代市役所本庁４階　４０３会議室

【出 席 者】
中　　勇　二　教育長
渡　邉　裕　一　教育委員
澤　村　亙　寛　教育委員
早　田　　蛍　教育委員
丸　山　智　子　教育委員

【出席職員】
鋤　田　敦　信　教育部長
長　舩　征　洋　教育部次長
田　中　博　之　教育部次長
押　方　佐地子　教育政策課長
早　瀬　泰　志　学校教育課長
稲　本　健　一　教育部理事兼教育施設課長
岡　山　恭　久　生涯学習課長
中　村　裕　一　教育サポートセンター所長
山　﨑　　摂　博物館未来の森ミュージアム副館長
坂　部　功　泰　未来の学校づくり推進室長
福　田　雅　代　学校教育課教育支援係長
藪　　沙代子　学校教育課指導主事

【事 務 局】
池　田　拡　次　教育政策課主幹兼教育政策係長
橋　口　久美子　教育政策課参事

（審議事項）

＜議案案件＞

① 八市教委議第２０号　八代市立図書館協議会委員の任命について

② 八市教委議第２１号　八代市立特別支援学校学則の一部改正について

③ 八市教委議第２２号　令和９年度（２０２７年度）八代市立八代支援学校高等部普通科の募集定員について

＜報告案件＞

① 報告第１５号　令和８年度９月補正予算の概要について

① 報告第１６号　令和８年熊本地震に係る被災状況及び対応状況について

１．開会　（午前９時０４分　開会）

２．会議録の承認　　令和８年６月定例会

３．教育長報告　　前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

４．議題

＜八市教委議第２０号＞　八代市立図書館協議会委員の任命について

岡山生涯学習課長　　八代市立図書館協議会委員の任期満了により、新たに任命するもの。

早田教育委員　　役職の交代の方も多いと思ったが、７番と８番の方はどのようなことをされている方なのか。

岡山生涯学習課長　　７番は子供に読み聞かせをするボランティアグループの方、８番は合同会社ドリーム㈱の代表社員で児童発達支援をされている方である。谷井さんは千丁地域、西村さんは鏡地域の代表として選任している。
【八市教委議第２０号　承認】

＜八市教委議第２１号＞　八代市立特別支援学校学則の一部改正について
＜八市教委議第２２号＞　令和９年度（２０２７年度）八代市立八代支援学校高等部普通科の募集定員について

中教育長　　２つの議案については、関連があるため、一括して学校教育課より説明をお願いしたい。

早瀬学校教育課長　　八代市立八代支援学校高等部について、今後、募集定員を超える志願者があった場合にも適切に対応できるよう、教育相談の参加状況及び進路希望調査により把握した希望者数を基に、毎年度募集定員を定めることができるよう所要の改正を行うものである。併せて、令和９年度八代市立八代支援学校高等部普通科の募集定員について、八代市立特別支援学校学則第４条第３項の規定に基づき、八代市教育委員会において別に定めるため、本案を提出するものである。

中教育長　　今回の改正の大きな流れと、なぜこの人数設定になったのかを説明していただきたい。希望調査や教育相談を実施したことや、通常の高等部を受験してもらう事務の中で分かった人数設定について説明していただきたい。

早瀬学校教育課長　　現在、支援学校高等部の受験者及び小中学部の在籍数が非常に増加しており、八代支援学校高等部への入学者数も増加

する見込みである。そのため、現段階で規定を改正する本議案を提案した次第である。
　熊本県立特別支援学校の募集定員については、教育相談及び進路希望調査を見越して学級数、募集定員数を決定している。一方、八代支援学校には一般学級８名、重複学級３名という人数の決まりがあり、これを超える受入は困難な状況にある。過去には募集定員を超えて入学者を認めたこともあったと聞いているが、教職員の負担増や学校の適切な指導が行き届かないという懸念が出てくる。したがって、八代支援学校への志望者数に応じて学級数を増やせる体制を整えることを目的とし、本提案を行ったところである。

中教育長　　定員８名にすると、１学級が８名で編成するという大前提があるので、例えば１０名申し込みがあった場合、１０名合格させると１０名で１クラスを編成することになるが、先生は１人しか配当できない。１６名にして２クラス編成に改正すると、先生が２人配当になる。ただもし１６名とした場合、１回目の申し込みで例えば１０名しか合格しなかった場合は２次募集を行うことになる。あと６名余裕があるので、６名まではまだ受け入れられることになり、１６名までは募集を続けなければいけないということになる。ただ、担任の先生は１人で８名までということになるので人員配当はある。進学希望調査の結果、第一希望が１１名、第二希望が２名であった。他の高等部を受験し、不合格となった場合には支援学校に入学を希望すると思われる方が２名ある。支援学校を受験する場合は事前に教育相談を行うが、既に教育相談を受けた方が１６名おり、今後さらに１０名が予定されている。そのため、現行の定員８名では受け入れができないことから対応を図りたいということである。年度によって在籍する子供たちの状況が異なることから、年度ごとにこれを決めていくことができるよう、八市教委議第２１号議案の改正が必要になるということである。
今年度の支援学校中学部の３年生は、在籍何名か。

藪学校教育課指導主事　　昨年度は１４名だったが、１名転出があり１３名である。１３名中８名が、支援学校を第一希望としている。まだ募集定員を公開していないため、定員１６名を公開すると希望者が増える可能性はあると思われる。

中教育長　　現在、中学校の特別支援学級に在籍して、八代支援学級を希望する方もいるのか。

藪学校教育課指導主事　　いる。

中教育長　　学校の教室の状況について、学校の方ではどのように考えているか。

早瀬学校教育課長　　高等部に関しては２学級になる分には大丈夫と確認している。

早田教育委員　　人数が多くなっても先生たちを適切に配置するための変更ということでよいか。

早瀬学校教育課長　　お見込みのとおり。

渡邉教育委員　　教育相談や進学調査を事前に行って改正するのは、本当にありがたいことだと思う。ちなみに近年は、支援学校中学部を卒業した子供たちは高等部以外、どういったところに行くケースが多いのか。

藪学校教育課指導主事　　昨年度は８名であったため、全員八代市立支援学校の高等部に進学した。今年度、希望の様子を見ると、鏡わかあゆ高等支援学校を受験する方もいる。他は県外に転出ということもある。

中教育長　　鏡わかあゆ高等支援学校の近年の入試状況を資料に載せている。専門学科においては、募集定員を超える出願があっている状況である。一般学科については、定員数を上回る年と下回る年があり、令和７年度の出願者数は定員を下回る状況であった。

【八市教委議第２１号　第２２号　承認】

＜報告第１５号＞　令和８年度９月補正予算の概要について

長舩教育部次長　　資料により説明。
●学用品支援事業（Ｒ８熊本地震）
●小学校通学関係事業（Ｒ８熊本地震）
●学校給食応急対応事業（Ｒ８熊本地震）
●青少年センター管理運営事業
●公立学校施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）
●学校給食施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）
●社会教育施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）
●就学援助事業（Ｒ８熊本地震）
●公立学校施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）
●学校給食施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）
●社会教育施設災害復旧事業（Ｒ８熊本地震）

澤村教育委員　　最後に説明された社会教育施設災害復旧事業の博物館分について、展示ガラスケース等復旧が１億４３００万円となっている。博物館もかなり被害を受けていると思っていたが、この展示ガラスケース等の復旧だけで、１億４３００万円とかなり大きい額と思うので、何か他にもいろいろあるのか教えていただきたい。

山崎博物館副館長　　展示ガラスケースは、キャスターがついて移動できるガラスケースのことで、壁付きの展示ガラスケースは、今回全部無事であった。移動できるガラスケースが１７台あり、棚が倒れたりぶつかったりした衝撃でガラスが割れてしまった。当初、予算を要求する際に、倒れたり飛散したりしている中にケースがあったため状況確認できなかったことから、１７台全部作り直すというところで見積もりを取った。１台が５００万円から８００万円くらいするので、この金額になる。開館当時に伊東豊雄氏のデザインで作った特注品になるので、高額となった。現在、修繕の仕様を詳細に練り直して検討しているところである。ガラスケースの他に、今回の地震で博物館の緑の丘がズレを起こし、ひびが入ったので、そういった修復費用も含んでいる。

丸山教育委員　　今回、給食センター等の被害がひどく、応急給食の対応等で大変だったと思うが、９月分の給食費について今回のレトルト食は、通常と違う給食であったため変わると思うが、給食費の徴収はどうなるのか。

押方教育政策課長　　この応急給食に関して、主食のご飯、パンと牛乳は通常通りのものを提供している。その分は、保護者の方から徴収する。今回、応急で対応したレトルト食品などの応急給食分は市で負担する。

丸山教育委員　　今、補助も入っているので、ほぼ保護者の負担はないということか。

押方教育政策課長　　小学生で月５００円という負担になっている。９月分が１食あたり、小学生が主食と牛乳を足して１６８円だが、保護者負担は月５００円で収まると思っている。年間トータルで精算してみないと分からないが、保護者の負担は増えないかと思う。

渡邉教育委員　　短い期間で補正予算の編成、大変だったと思う。ここにない今後、さらに補正が必要となる見込みの事業等はあるか。

稲本教育部理事兼教育施設課長　　まず今回一番被害を受けた龍峯小学校について、どういう風な対応を行うか、もし改修にあたることになった場合、要

求している額では収まらないので、どのような形で再開を行うかで、今後費用がかかってくると見込んでいる。

中教育長　　龍峯小学校以外で、見込めるところというのはあるか。

岡山生涯学習課長　　図書館の本館と鏡分館、千丁分館のバックヤードにおいて移動棚が倒れており、これらについては補正予算で対応する予定である。その他、八代市公民館のドアや外観などにも被害が生じているのが、現時点で被害額が確定していないため、今回の補正予算への要求は見送っている。

中教育長　　移動棚の金額が高いとのこと。本庁舎にある市の書類が入っている移動棚も、あれだけ傾いており、図書館の移動棚も傾いたりレールから外れたりしているため、大規模な改修が必要であることから、かなりの金額が掛かるとのこと。

早瀬学校教育課長　　現在避難所となっている二中、鏡中、鏡小、太田郷小に関することだが、部活動や日常の体育の授業で体育館が使えない場合に、その移動手段や代替の施設を利用するための予算が今後考えられると思う。

＜報告第１６号＞　令和８年熊本地震に係る被災状況及び対応状況について

鋤田教育部長　　令和８年熊本地震に係る被災状況及び対応状況について、資料により説明。

丸山教育委員　　龍峯小の子供たちは、宮地小で勉強をしており、それぞれ工夫しながら使っていると思うが、実際のところ、宮地小の子供たち、龍峯小の子供たちはどんな様子だろうか。

早瀬学校教育課長　　始業式自体は別々に行ったが、その間に二校の交流会を行ったとのことで、お互いの学校の良いところから出会って進んでいるという話を聞いている。龍峯の伝統「九一マラソン」も継続して行っており、そこに宮地の子供たちも参加という話が出ている。挨拶も前よりもよくなったなど、良い話が聞こえている。

澤村教育委員　　先ほど龍峯小の建て替えの話が少し出たが、今後の見通しとして、龍峯小が宮地小で学習することは何年か続く状況になるということだと思うが、見通しはまだないということか。

鋤田教育部長　　先ほど稲本教育施設課長から話があったとおり、今の龍峯小の状況調査をまずはしなければいけないと考えている。当

面は、建て替えるにしても、別のところをするにしても、かなりの時間を要する。どのような方法、環境が子供たちにとって良い環境なのかを考えていかなければいけないと思っている。時期についてはまだ全然掴めていないところである。

澤村教育委員　　やはり子供たちの状況、特に龍峯小の子供、宮地小の子供たちが１番大事だと思う。色々苦労がこれから続くと思うが、しっかりお願いしたい。

渡邉教育委員　　文部科学省の学校支援チームの支援活動がいくつかの学校であっていて、大変ありがたいことだと思った。具体的にどのような支援活動があり各学校どのような成果があったと感じておられるか。なにかわかれば教えてほしい。

早瀬学校教育課長　　学校支援チームは夏休み中から支援を頂いている。教室等の移動や龍峯小から宮地小への移動など、さらに教室の掲示等や机に名札貼りなど、そういうところまで行っていただいた。また２学期のスタートに向けてはいろんな学校から子供たちのケアの方法、また先生方の研修などもやっていただき、各学校で必要なことを支援していただいているところである。学校から本当にありがたいという話があり、それを直接支援チームの方々にも言われていた。八代市の先生方の感謝の思いが私たちも元気をもらったので県に帰って伝えますと言っていただき、非常に良い支援を頂いたうえ、八代市の先生方も元気をいただいた。

渡邉教育委員　　ニュースでも見たが、具体的な部分がよくわからなかった。将来的に逆の立場になることもあるかもしれないので、そういった成果や課題を残しておくことは、有効に働くと思う。

中教育長　　学校支援チームは文部科学省からの派遣ではあるものの、実際の編成は県教育委員会や政令指定都市の教育委員会ごとに行われており、何をどうやるといった支援のノウハウも様々である。初期に支援に入っていただいた岡山県チームは、過去の岡山での水害や、能登半島地震での支援実績から、豊富なノウハウを有しておられ、心のケアに関する研修の実施、宿舎や学校を巡回する車の自主手配のほか、学校の様子を見て何が必要なのかを把握し、自分たちで「今の時期はこれが必要」という判断を行っていただいた。その後に支援に入られた大阪府、北九州市、岩手県の各支援チームにおいても、岡山県チームとの密接な連携のもとで知見が共有・蓄積され、より効果的な支援体制が構築されていったと感じている。

２学期開始時には通学路の見守りなど行っていただいた。また、２学期が始まる直前に訪問した学校では、各教室の机の配置や掲示物の設置といった環境整備を支援チームが精力的に引き受けておられた。これにより被災した学校の先生方は本来の新学期準備に専念できる環境が整い、大きな支えとなっていると感じた。

早田教育委員　　給水支援中の六中、三中、弥次分校は、手洗いなどの対応はどうしているのか。

稲本教育部理事兼教育施設課長　　給水車は受水槽に給水活動をしており、飲料水についてはペットボトル、トイレなどの生活用水については給水車での活動、さらに仮設トイレを設置している状況である。できるだけ仮設トイレを使わないように受水槽に給水活動を行っているので、通常であれば手は洗える状況である。

早田教育委員　　伝えるか迷ったが、給食のことで、子供たちの家での姿を見ていると、最初の頃は明らかに量が少なかった。中学生は特に、帰ってきてかわいそうになるぐらいの量だったかなというふうに思っている。色んな対応をされている中で、教育委員会の担当も十分対応されていると思いつつも、ちょっと子供たちが我慢する期間があったと思った。内容についても、あまり美味しいとは言えないものを３週間程度子供たちも頑張って食べて乗り切っていたかなと思う。学校からのプリントでも、防災教育と思って我慢をしましょうみたいなことが書いてあったので、そこは少し防災教育とは違うのかなと思った。仕方ない部分もあり、保護者としても何かできることがあったのではないかと保護者同士で話しが出ていたので、そういったところも臨機応変にもう少し対応できると、子供たちの我慢も減ったのかなと思った。これは意見なので、教育委員会から学校のほうにどういった認識で子供たちに伝えていくかというところも伝えてほしいというふうに思った。

中教育長　　思いのほか学校給食というのは大変であることを痛感した。議会冒頭での市長挨拶の中でも、学校教育に関して学校給食のことに触れられていた。校舎の安全性、子供たちの心のケア、安心、そういった確保も当然大事だが、それ以外にも、学校給食をはじめとする各種環境が整わなければ、通常の学校教育を運営できないことが改めて浮き彫りとなったと思う。

給食センターが老朽化しているため、新センターの建設に着手しているところである。被災すると何らかの影響が生じることは想定されてはいたものの、実際に被災した場合の対

応については、防災計画上も、応急給食を実施する程度の記載にとどまっており、具体的にどの規模でどういうことを実施するかといった具体的な運用までは定められていない状況であった。そのため、現場では手探りで対応にあたることとなった。
　今回は夏休み期間中であったため、約１ヶ月間の猶予期間はあったが、それでも３週間はレトルトでの対応となった。仮にこれが学期中の被災であったら、さらに長期化していたということが考えられるので、被災した場合の状況、対応策については具体的に考えておく必要があると感じている。気温の高さや、期間の長さなど、自宅から持ってきてもらうのは難しいなど様々な検討を重ねたところである。
　今回の被災を教訓として、災害はないほうが良いが、万が一の際の次回以降の対応についても、検討していく必要あると考える。

丸山教育委員　　学用品の現物支給について、先ほどの補正予算のときに説明があった人数と、８月２８日現在の申請が７２人でちょっと開きがあると思ったが、これはそんなには必要なかったと解釈してよいのか。

福田学校教育課教育支援係　　予算要求時は、り災証明書の申請を受け付けている段階であったので、今後の見込みの人数に対して、小中学生がいる世帯が２０％程度という見込みを立てた。その世帯数に対して、小学校については１人あたり１万円、中学校及び支援学校については１万５０００円で積算を行った。その際の想定人数の合計を１，６８０名というところで見込んでいたため、実績との差が出たところである。

丸山教育委員　　想定より少なかったのであればよかったと思う。

中教育長　　関連して、これは災害救助費の対象分でそれ以外の部分で支援を行ったセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンなどを教えていただきたい。

福田学校教育課教育支援係　　災害救助法について、就学上最低限必要なものという趣旨に基づいている関係で、制服やランドセル等は対象外となっている。ただ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの方から話があり、制服やランドセルや中学校の通学用バッグについては支援をしていただいた。件数については、ランドセルは２名、通学用バッグは４名であった。

丸山教育委員　　子供たちのいる家庭の被害はそんなになかったということか。

中教育長　　水害とは状況が違うため、家に取りに行けた方もいるかもしれない。
　建築基準法でかなり耐震が求められているので、新しい家は比較的壊れていないので、小学生や中学生がいる家庭は新しい家が多かったのではないかと思う。
　単純に同じ率ではなかったということだと思う。

５．連絡事項　　学校教育課　八代中体連駅伝競走大会（10/15）
　県大会（11/6）
　道徳教育研究指定校　研究発表会（11/13）
　中高一貫連携教育実施校　実践発表会（1/28）
教育サポートセンター
　八代地区科学発明工夫展（10/2～10/4）
　第４回トワイライトセミナー（10/22）
　代陽テラスのフリースペース（9/28～利用開始）
事務局　　１０月定例会日程確認（10/26　14：00～予定）

６．会議録署名委員の指名　　丸山委員・早田委員

７．閉会　　（午前１０時１１分　閉会）

令和　　年　　月　　日

署名委員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記録者

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿